



## < プロセス編 PROCESS >

### 「つかう」：とよたの都心の未来のマネジメント

- 1 「つかう」の考え方と取組 ..... 107
- 2 2015・2016年度の実証実験紹介 ..... 109
- 3 公民連携による取組の考え方 ..... 115
- 4 4つのゾーンで行う「つかう」の取組 ..... 117



## 「つかう」：とよたの都心の 未来のマネジメント

豊田のまちの人々が、都心の様々な場所できつろぎ、楽しみ、憩う、豊かなライフシーンは、それ自体がまちの新たな象徴となります。「つかう」取組では、市民や事業者をはじめとした多様な人々と連携し、実証実験や段階的整備を行いながら、そうしたシーンを生み出し育てていくための自立的な地域経営の仕組みを築いていきます。



## 「つかう」取組の実施方針

とよたの都心では以下の4つの方針を実践することによって、「まちなかをつかう」ことを促進していきます。

### 「空間」を「居場所」に、「シビックプライド」を育む

#### 01

人のためのまちなか実現向け、「出会い機会」と「化学反応」を増大させます。そのためには、まちなか広場のプレイスメイキングが不可欠であり、その先に、出会いや交流の創発が起こり、シビックプライドを育むというプロセスが描けます。従来の管理区分やルールを超えて、市民自らが使いこなし、新たな公共性やまちの作法を創っていくことが重要です。地域のみなさんと共働して「つかう」取組を推進することで、まちが変わる機運を高めていきます。



### 駅前をまちの情報集約・発信拠点に

#### 02

駅前が人に開かれたまちの象徴となり、豊田のまちがめざす将来像や、豊田のまちでの過ごし方、楽しみ方が直感的に伝わり、市内の様々なエリアや人への出発点となれるような場所を目指します。

これからは市民・企業一人一人が世界への発信者になれる時代です。今回の都心環境計画の実現を通し、駅前の空間に豊田らしさを象徴する場や活動を埋め込んでいきます。

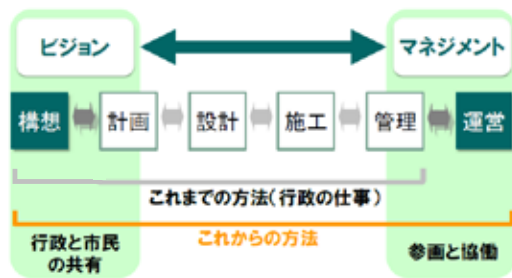


※プレイスメイキング：愛着や居心地の良さといった心理的価値を持つ場所をつくり出す計画の理念・手法  
 ※シビックプライド：市民が都市に対してもつ自負と愛着

構想 ⇄ つくる ⇄ 管理する ⇄ つかう、を一気通貫で

03

これまでの、まちの将来像を描く「構想」の検討や、出来上がった施設や公共空間を活かしていく「運営」の部分では市民参加が図られてきましたが、それ以外の「計画」や「設計」「施工」や「管理」といった部分はそのほとんどを行政が担ってきました。しかしこれからは、プレイスメイキングの理念や手法を用いて、運営主体となる主利用者や企業も各工程での検討に加わり、その結果をプランや整備内容に反映する新しいプロセスを展開していく必要があります。

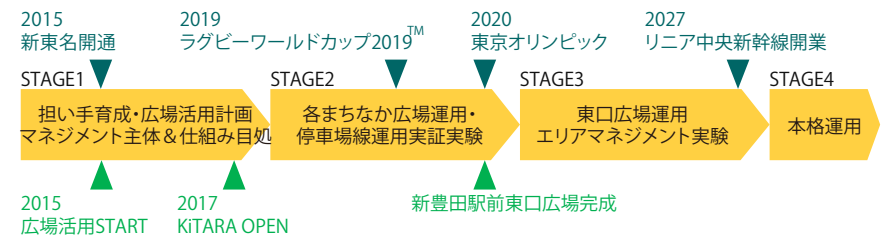


段階的なロードマップ

04

「つかう」の活動の初年度となる2015年度は、STAGE1のキックオフとして、市民や企業の力を引き出すプロセスづくりやまちを使いこなす機運を高めてきました。2016年度はその成果も踏まえ、試行的な広場空間活用を強化し、運営主体の発掘・育成、規制緩和の促進、民間企業との連携強化等を実施しました。

今後は、段階的なハード整備に合わせた利活用や将来的な公民連携の方針づくりを進めていきます。



# 「つかう」取組の経緯

## 2015年度

「つかう」取り組みの初年度となった2015年度は、「つくり手から使い手視線、プレイスメイキング」「一過性のイベントから日常の風景へ仕組みづくり」「市民が参画でき、希望を持てるようなプロセス」というキーワードを掲げ、スタートしました。下記のステップを経て、「志ある民間主体による管理運営」や「アイデアと覚悟をもった地元事業主の活躍の場」の実現を目指しました。

### STEP 1

#### まちの現状分析（ポテンシャルと課題の把握）

- 1 現状のまちなか空間の利用の視点
- 2 豊田のまちのポテンシャル、市民性の視点
- 3 各エリアの空間的特徴の視点

### STEP 2

#### 仮説の設定

- 1 自由と責任の下、空間を自ら使いこなす担い手・アイデアが必要
- 2 段階的な使いこなしと空間整備、使う担い手が「つくる」に関わることが必要
- 3 「つかう」と「つくる」の両輪で計画を推進、市民が関わるプロセスのデザインが必要

### STEP 3

#### まちの皆さんと試行・検証する（あそべるとよたプロジェクト）

- 1 実証実験：あそべるデッキWEEK / あそべるとよたDAYS
- 2 空間をより使いやすくなるための制度改善：ペDESTリアンデッキ広場
- 3 空間をより使いやすくなるための運営体制構築：あそべるとよた推進協議会
- 4 プロモーション

■対象広場：まちなかの9つの広場（行政管理：5つ / 民間管理：4つ）



#### ■検証の方法

【評価指標】数値で測る「定量的指標」+数値にはならない「定性的指標」

【調査方法】空間構成調査+空間機能調査+観察調査

#### ■実施体制：「あそべるとよた推進協議会準備会」

※2016年度より「準備会」は削除

行政	民間広場管理者	地元組織
<b>土木管理課</b> 管理広場：新豊田駅前広場 豊田市駅西口デッキ下	<b>豊田市駅前開発（株）</b> 管理広場：夢合館前広場	<b>TCCM</b> (中活協議会)
<b>公園課</b> 管理広場：桜城址公園	<b>豊田市駅前通り南開発（株）</b> 管理広場：コモ・スクエアイベント広場	<b>栄化館地区 区長会会長</b> ※2016年度より
<b>商業観光課</b>	<b>豊田市駅東開発（株）</b> 管理広場：ギザ前広場	
	<b>豊田まちづくり（株）</b> 管理広場：シティアラザ	
<b>事務局 豊田市都市整備課</b> 管理広場：ペDESTリアンデッキ広場 / 喜多町三丁目ポケットパーク		





## 2016年度

「つかう」取組みの2016年度は、2015年度の成果の課題からまちなか広場を4つのタイプに分類し、それぞれの広場の属性にあった取組みを実施しました。まちなかには、民間活力を導入しやすい収益性の望める広場もあれば、公益性が高く、稼ぐことは難しくとも若年層や高齢者、特定のテーマをもった組織の活動の場として確保すべき広場もあります。そうした広場の特徴を2015年度の取り組みから読み取れたことは1つの大きな成果でした。

### 「統一窓口」による広場活用



**対象広場：**まちなかの全9か所の広場  
**目的：**活用の担い手発掘・育成  
 活用ノウハウの蓄積

**実施内容：**  
 ●公共空間の管理者育成  
 ・活用の統一窓口を設置し、使い手を募集  
 ・原則自由利用とし、通年を通して募集  
 ・1か月ごとにテーマを設定し、使われ方を調査

### 「収益事業型」の広場活用



**対象広場：**ペDESTリアンデッキ広場  
**目的：**半年間の飲食販売&活用コーディネート、実施者の発掘と事業性の検証

**実施内容：**  
 ●広場での事業化可能性の模索と空間の質向上  
 ・半年間の飲食販売事業者の公募と事業実施  
 ・コンテナ店舗を使用した飲食店営業及び広場活用、管理、イベント開催のコーディネート  
 ・事業実施者による空間の演出と維持管理の実施

### 「管理者支援型」の広場活用



**対象広場：**広場管理者が自ら投資し、積極的な活用を図ろうとする広場  
**目的：**広場管理者の自発的な投資による活用を支援し、自立運営を促進

**実施内容：**  
 ●投資意欲のある広場管理者が独自に実施する施策に対する推進支援  
 例・可動式のストリートファニチャーの設置や仮設的空間整備による空間活用の提案

### 「担い手発掘・育成型」の広場活用



**対象広場：**新豊田駅前東口広場  
**目的：**投資が行われにくい広場での公益性の高い活用と使い手を中心とした運営体制の構築

**実施内容：**  
 ●ワーキングチームによる広場のリノベーション  
 ・広場の現状分析とポテンシャル発掘  
 ・具体的な活用イメージを持つ人材による活用案の検討  
 ・日常的な広場運営の体制検討  
 ・年間を通じた活用スケジュールの検討

## 「統一窓口」による広場活用



対象広場：まちなかの全9か所の広場  
 目的：活用の担い手発掘・育成  
 活用ノウハウの蓄積

実施内容：  
 ●公共空間の管理者育成  
 ・活用の統一窓口を設置し、使い手を募集  
 ・原則自由利用とし、通年を通して募集  
 ・1か月ごとにテーマを設定し、使われ方を調査

### ■ あそべるとよたDAYS2016成果

- ・約半年間の実施でより日常的な活用につながり、広場使用日の分散、リピートする団体も複数現れた。
- ・複数の団体を取りまとめるコーディネーター役となる広場使用者もおり、広場使用者の成長がみられた。
- ・企業PRによる広場使用など、2015年度から企画のジャンルの幅が広がっている。
- ・同企画で複数広場を使用する団体もあり、広場が連続して存在する豊田の特徴を生かした活用が生まれた。
- ・講座内で広場使用の心得、細かなルールを説明により企画の質の向上、トラブルの事前回避ができた。

### ■ 各広場での実施時の様子



## 2015年度からの進化！

**あそべるとよたDAYSのポイント** 実施期間限定

- ① 期間中、まちなか広場が毎日使用できるようになります！
- ② 9つのまちなか広場の窓口・手続き・料金が統一されます！
- ③ まちなか広場つがいこなし講座を受講して、各自の責任でまちなか広場を自由に使えます！

2015年 あそべるとよたDAYS	2016年 あそべるとよたDAYS	将来の目指す姿
<p><b>1か月限定の実験的な活用</b></p> <p>試す</p> <p>今まで使うことが難しかったまちなか広場で</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●人々の活動</li> <li>●人々が憩う風景</li> </ul> <p>を実験的に創出できた</p> <p>まちなか広場って使えるんだ！</p>	<p><b>4か月間長期実験より日常的な活用へ</b></p> <p>広げる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 市民・企業の使い手を更に増やす</li> <li>② テーマ・季節に応じた利用ニーズを探る</li> </ol> <p>SPORT RELAX MUSIC NATURE</p> <p>広場 広場 広場 広場</p>	<p><b>日常的なつかいこなしへ</b></p> <p>使いこなす</p> <p>使い手が責任を持ってまちなか広場をつかいこなしている</p> <p>広場の特性に応じて、活動の場・憩いの場として利用されている</p>



## 「収益事業型」の広場活用



**対象広場：**ペDESTリアンデッキ広場  
**目的：**半年間の飲食販売&活用コーディネート、実施者の発掘と事業性の検証

**実施内容：**

- 広場での事業化可能性の模索と空間の質向上
- ・半年間の飲食販売事業者の公募と事業実施
- ・コンテナ店舗を使用した飲食店営業及び広場活用、管理、イベント開催のコーディネート
- ・事業実施者による空間の演出と維持管理の実施

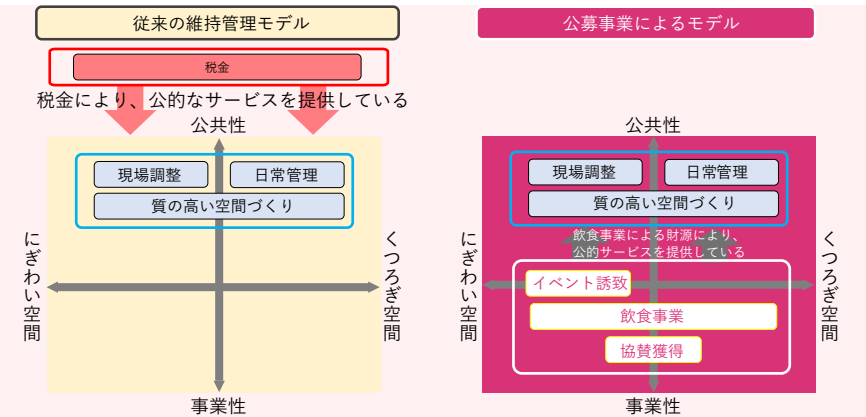
公募により採択された「〇七商店」が4月から11月の約半年間営業を行いました。

### ■ 検証項目

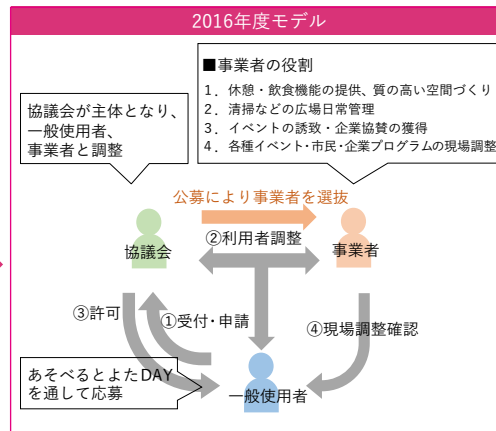
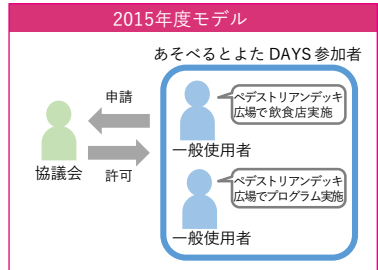
1. 様々な市民や企業等の利用を促し、日常的なくつろぎ、活動空間を創出する仕組み
2. 誰にでも開かれた質の高い空間を創造し、維持管理する仕組み
3. 飲食販売、イベント誘致、協賛獲得等の取組によって財源を確保し、自立した運営ができる仕組み
4. 日常の清掃管理、他の広場利用者との調整など、公益性の高い役割を担い、まちに還元する仕組み
5. あそべるとよたプロジェクトの趣旨や公益性を広く伝え、賛同者を増やしていく仕組み

### ■ ペDESTリアンデッキ広場長期飲食等事業者公募事業成果

- ・自らリスクをとりながら公益性の理念を持ち、公的な役割も担う事業者が現れ、事業が確立できた。
- ・飲食事業で収益を確保しつつ、清掃・現場調整を初めとした広場マネジメントの実施の体制が構築できた。
- ・広場の清掃、安全・安心な空間づくり、無料で座れる空間の提供など公的な資金に頼らず、民間資金を元手に市民のプラスとなるサービスを提供することができた。
- ・高質な空間、魅力的なイベントの実施により、豊田市のチャレンジ精神が他都市からも評価されている。



## 2015年度からの進化！



### ■ 営業期間中の様子



## 「管理者支援型」の広場活用



**対象広場：** 広場管理者が自ら投資し、積極的な活用を図ろうとする広場  
**目的：** 広場管理者の自発的な投資による活用を支援し、自立運営を促進

**実施内容：**  
 ●投資意欲のある広場管理者が独自に実施する施策に対する推進支援  
 例・可動式のストリートファニチャーの設置や仮設的空間整備による空間活用の提案

管理者支援型の広場活用では、広場活用促進のために投資を検討されている広場管理者の方に、その広場の現状分析や活用イメージのご提案をしてきました。

例：コモ・スクエア北側エリア活用イメージ提案 例：GAZA南広場活用のストーリーと参考イメージ



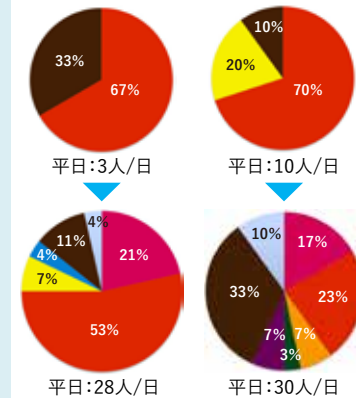
- ・広場が快適な滞留空間となることで、ランチ時やティータイムの時間帯での利用者増加が見込める。
- ・店内で弁当類やお惣菜、菓子類等を販売する飲食物販店での購買機会の増加が期待できる。
- ・快適な居場所へと改変した広場空間は、利用者の購買機会を創出し間接的な収益機能を担う事となる。

### ■GAZA南広場の現状とポテンシャル

- ・豊田の街の中でも数少ない南向きの広場である
- ・低層部に飲食物販テナントがいることで、滞留する人への飲食物提供や販促活動が可能である
- ・広くまとまった整形の空間の確保が可能である
- ・現状でも朝の散歩や昼食時の立ち寄り利用があり、日常の生活動線上に立地している
- ・実証実験による利用ニーズが把握できている



#### 【実証実験時のアクティビティの変化】



### ■人工芝と木製座具による気軽なつろぎエリアを提案





## 「担い手発掘・育成型」の広場活用



対象広場：新豊田駅前東口広場

目的：投資が行われにくい広場での公益性の高い活用と使い手を中心とした運営体制の構築

実施内容：

- ワーキングチームによる広場のリノベーション
- ・広場の現状分析とポテンシャル発掘
- ・具体的活用イメージを持つ人材による活用案の検討
- ・日常的な広場運営の体制検討
- ・年間を通じた活用スケジュールの検討

4

### 運営の仕組み構築と「ハーフメイド」のハード整備による段階的なプロセス

新豊田駅前東口広場のカスタマイズでは、最初から広場のすべての要素を造り込むのではなく、まずは基本となるインフラや舗装、植栽等の最低限の設備を整備します。その後実際に使いながら利用者、運営者のニーズに合わせて成長する広場として育てます。このようなハード改修の進め方を「ハーフメイド」と呼びます。

#### 「豊田の都心を育てる会 未来部会」のみなさんからの提案

2016年度の検討については、「豊田の都心を育てる会 未来部会」のみなさんと共に市民ワークショップを企画をし、進めてきました。その際、2015年度のおそべるとよたDAYSでの成果などから「アクティビティ・スポーツを軸とした目的性の高い空間を目指す」という基本方針が掲げられました。

**A 新豊田駅前東口広場**  
アクティビティ・スポーツ(目的性の高い空間を目指す)

**B 豊田市駅西口デッキ**  
(1)豊田市駅西口バスターミナル  
ランドセントラル(明るく開放感のあるバス待合)  
(2)豊田市駅西口デッキ(上)  
発着する商業施設と連動した、遊いの空間

**C 豊田市駅東口まちなか広場**  
開放的で一体感のある空間(通りではなく広い空間)

**(3)シティプラザ**  
バスターミナルやターフェイスと連動した活用

ストリート  
フニチャー  
Street Furniture

植栽  
Greenery

舗装  
Paving

新豊田駅前  
東口広場

インフラ  
ストラクチャー  
Infrastructure

### なぜ「ハーフメイド」で広場をつくるのか

「これからは、街を誰かにつくってもらうのではなく、自分たちがつくることで、まちのこともっと好きに、もっと身近に、もっと自分のこととして感じられるはずです。こうしたプロセスを経ることで、シビック・プライド(市民のまちに対する誇りや愛着)が生まれ、まちの魅力づくりの根幹となっていきます。行政の得意なことと、市民の得意なことをうまく分担しながら、豊かな暮らしの風景をこの広場にもつくっていくことが重要です。」

新豊田駅前東口広場カスタマイズワークショップ企画支援  
大阪府立大学助教 武田重昭

### 将来的な広場運営の担い手のみなさんと進める整備プロセス

2015年：活用実証実験実施(短期集中型)

2015年度のおそべるとよたDAYSでは、スケートボードやスラックライン、FMX等のニュースポーツ系の企画が実施され、大人世代だけでなく、中高生や親子連れ等多様な世代の人々がアクティビティを楽しみました。



2016年：活用実証実験実施(常時募集型)+運営検討WS開始

- 第1回WS 2016年11月19日(土)「現地見学+潜在力発掘」
- 第2回WS 2016年12月11日(日)「特徴を活かしたか使い方検討」
- 第3回WS 2017年2月25日(土)「試行実験に向けた企画検討」

2017年：運営検討WS(活用実験)+詳細設計

2018年：運営体制構築+広場改修工事

2019年：リニューアル・オープン(供用開始)

### ワークショップでの検討の様子





# 公民連携の方針骨子

- 「公共（行政）」と「民間」の役割分担による相乗効果-

## 公民連携の「方程式」

□行政が投資し行政が維持管理する時代から、民間投資やマネジメント主体がある場所に公共投資をする時代へ

- ・ 既存の建物をまちに開く等、ハードの改修・改善
- ・ 公共空間に隣接する建物や地先空間の一体的かつ積極的なマネジメント
- ・ 施設の改善と連動したテナント計画の再編等、民間主体の環境・仕組みの整備



- ・ 西口デッキ再整備、駅前空間の広場化
- ・ 都心地区の交通機能の再編
- ・ 歩行者空間の拡大等の公共事業によるハード整備
- ・ 民間や市民の活用を促す仕組みや制度の整備



## 民間による投資と取組

## 公共による投資と取組

## 公と民の役割分担

□行政の得意な基盤整備や制度づくりと、民間が得意な魅力的な場所づくりや運営の効率化による相乗効果を

行政もしくは民間事業者によって整備された施設や広場の積極的な運営や再投資を通して、エリア価値の向上及び公共空間維持管理費の削減を行います。その際、民間事業者独自のノウハウとブレイスメイキングの手法によって収益を獲得し、自立的なマネジメントを実施します。

**1** 民間のノウハウと財源によって、行政が整備した施設の特徴を最大限に活かした運営や魅力アップを行っていただけるよう連携を図ります。

**2** 民間オーナーが各施設の地先広場を活用し、空間づくりと積極的な運営によって上げた収益を再投資することで施設・広場・エリアの価値が高まる、という流れが生まれるよう支援します。



収益事業によって得た利益を広場の環境向上に再投資する

## 民間が担うべき役割

行政でなければできない都市の基盤整備や、民間が使いやすいような制度設計と権限の移譲、相乗効果が期待できる既存の公共サービスのさらなる魅力化や運営への民間ノウハウ導入を行うことによって、都心地区のより豊かな環境整備を推進します。

**1** 民間が積極的な活用・運営を目指す部分については、市が行うハード整備内容に反映します。

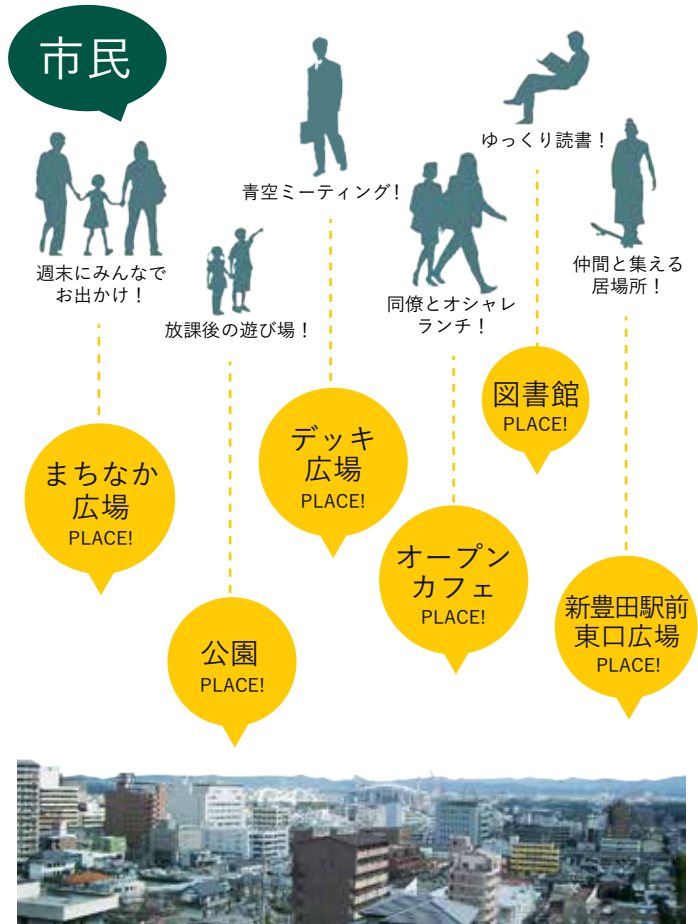
**2** イベント等に関わる行政予算を縮小しつつ、民間の自立的活用を促す制度設計や公益性の理念を持った運営主体への権限移譲を促進します。



民間への権限委譲と活用を高める制度設計

## 公共が担うべき役割

多様な人の「これやりたい！」  
が実現できる豊かな都心を実現します。



Public-Private Partnership in TOYOTA City.

2016年【実証実験】

「つかう」  
○あそべるとよたプロジェクト2年目  
・市民、企業、担い手拡大  
・公共投資&受益者の役割分担の意識醸成

「つくる」  
○豊田市都心地区空間デザイン基本計画作成

ゾーンA  
新豊田駅前東口広場  
・活用検討WSの立ち上げ  
・活用アイデアの検討

ゾーンB  
西口デッキ広場  
・飲食店&マネジメント実験  
(公募事業者・6か月間)

ゾーンC  
東口まちなか広場  
・既存広場の活用実験  
(統一窓口・9か所・4か月間)

ゾーンD  
停車場線  
・地先建物オーナーによる管理活用

2017年【実証実験】

「つかう」  
○あそべるとよたプロジェクト  
・マネジメント主体の目処  
・広場使いの事例研究

「つくる」  
OKITARAオープン

・活用検討WS継続実施  
・広場空間の設計+運営体制検討

・飲食店&マネジメント実験  
(公募事業者・10か月間)

・既存広場の活用実験  
(統一窓口・6か所・8か月間)

・地先建物オーナーによる管理活用

2018年【民間に移管(検討)】

「つかう」  
○あそべるとよたプロジェクト  
・エリマネ試行スタート

「つくる」  
○UFJ跡地整備中  
○新豊田駅東口広場整備中

・活用検討WS継続実施  
・広場空間の工事+運営体制検討

・飲食店&マネジメント

・既存広場の活用実験

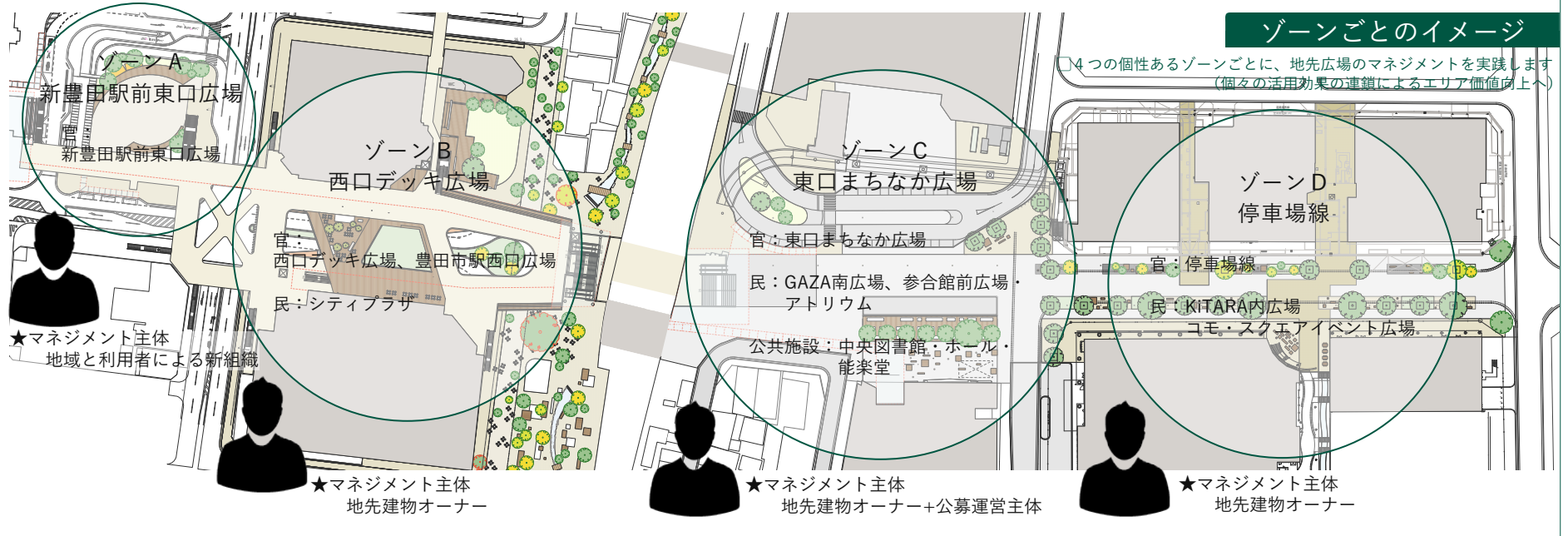
・地先建物オーナーによる管理活用

進め方のイメージ

□各ゾーンのハード整備の進捗や実証実験、公民それぞれバランスをとり、段階的に取組みます。

ゾーンごとのイメージ

4つの個性あるゾーンごとに、地先広場のマネジメントを実践します  
(個々の活用効果の連鎖によるエリア価値向上)



## ゾーンA 新豊田駅前東口広場

新豊田駅前東口広場は、他の広場では実施しにくいものも含めた目的性の高いコンテンツを軸とした活用を目指します。ストリートスポーツやアウトドア等のアクティブなコンテンツが展開されるとともに、親子連れやシルバー世代がそうした風景を眺めながら日常的につろげるシーンを育んでいきます。

### 1 現状及び試行に基づく広場の特徴

○現状の新豊田駅前広場は、4面を道路に囲まれており人通りも多くなく、あまり利用されていませんでした。

○2015年度のアソベるとよたDAYSではスケートボードやスラックライン等のストリートスポーツ企画を実施し、若年層のプレイヤーから親子連れまで幅広い支持を得ました。



### 2 活用の方針

○目的性の高いコンテンツを軸とし、その利用者となる市民組織が運営する広場を目指します。

○今後は、実際に活用アイデアを持ち運営の将来の担い手となる市民の方々と、活用案を実現するための空間・設備と運営体制の構築を検討していきます。

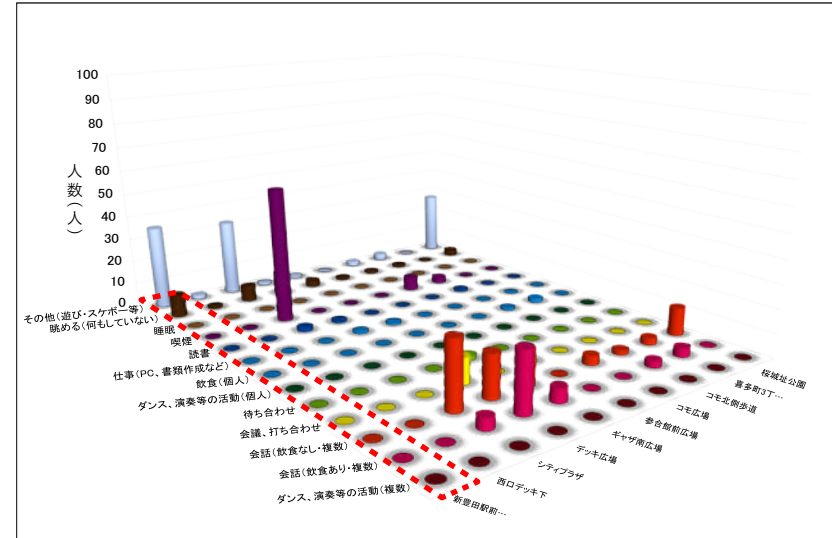


### 3 将来的な整備のイメージ（パース・図面）



### 4 プレイス調査の結果：試行期間中の秋・平日（2016.10.26）

○普段はほぼ利用者がおらず、デッキを通る人々にもその存在をあまり認識されていない場所でしたが、実証実験によって目的性の高いコンテンツ（スケボー等のストリートスポーツ）がある場合に、それを目的とする人々の利用が増加しました。



### 5 直近3年間のスケジュール

- 2016年度 活用アイデアを持った市民の方々の活用検討WSを開始
- 2017年度 活用検討WSの継続 / 試行の実施 / 詳細設計への反映
- 2018年度 改修工事の実施 / 市民組織による運営体制構築の検討
- 2019年度 工事終了・供用開始 / 市民組織による運営・活用



## ゾーンB 西口デッキ広場

西口デッキ広場は、2015,16年度の実証実験の成果に基づいた運営体制の構築と隣接する商業施設との連携によって、人々のくつろぐ風景が豊田のまちの「絵」になる場所となります。平日休日問わず、買い物に訪れる住民や出張に来た来街者にとって「止まり木」的な憩いの場を提供します。

### 1 現状及び試行に基づく広場の特徴

○これまでは豊田駅⇄新豊田駅の乗り換え客や、松坂屋・T-FACEに行く買い物客が通り抜けるだけの空間でした。

○2015,16年度、飲食店と寛ぎスペースを設置することで潜在的な滞留のニーズを発掘し、飲食店の収益で日常的な広場の管理運営を行う仕組みの試行と検証を行いました。



### 2 活用の方針

○多世代の市民が平日休日問わず広場でくつろぎ、人と出会い、滞留する風景そのものがとよたの街の「絵」になる空間を目指します。

○そのために必要な魅力的な飲食・物販店やその財源も還元しての広場運営に民間事業者のノウハウを活かし、行政のハード整備と共に公民連携による広場づくりを行います。

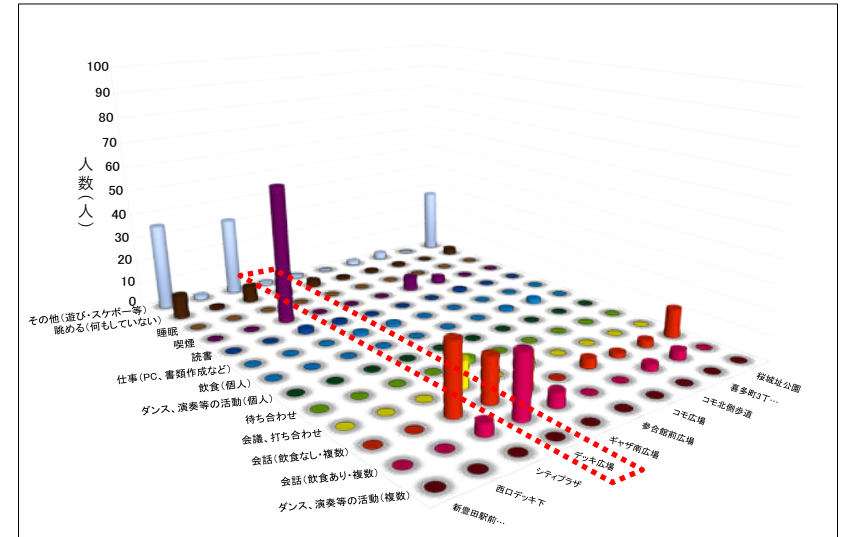


### 3 将来的な整備のイメージ（パース・図面）



### 4 プレイス調査の結果：試行期間中の秋・平日（2016.10.26）

○西口デッキでは、元々約2万人/日の通行量があるため、試行で明らかになったように快適なくつろぎ空間やおしゃれな飲食店などの滞留の仕掛けがあれば、多くの人々の利用ニーズがある場所であると言えます。



### 5 直近3年間のスケジュール



## ゾーンC 東口まちなか広場

東口まちなか広場は、「車から人へ」を体現し、新たな豊田市都心地区の象徴となる場所です。

これまでの交通広場が歩行者専用となり、参合館前広場やGAZA南広場と一体的につながる「人のための広場」となります。

### 1 現状及び試行に基づく広場の特徴

○現在の東口は、交通広場となっており、そこに面して参合館やGAZAといった施設の広場が面しています。

○2015年度の実証実験では、参合館前での飲食提供やGAZA南広場での子ども向けプログラム等を実施し、風対策や空間づくりが必要であることが確認できました。



### 2 活用の方針

○本格整備に向けて、参合館のアトリウムや図書館、ホールといった既存の空間・施設と連携した活用を積極的に図ります。

○将来的には、参合館前広場との一体的な空間づくりや、フラットに歩道とつながる水盤を設置し、お祭りの際には一番の晴れ舞台となる場所として整備します。

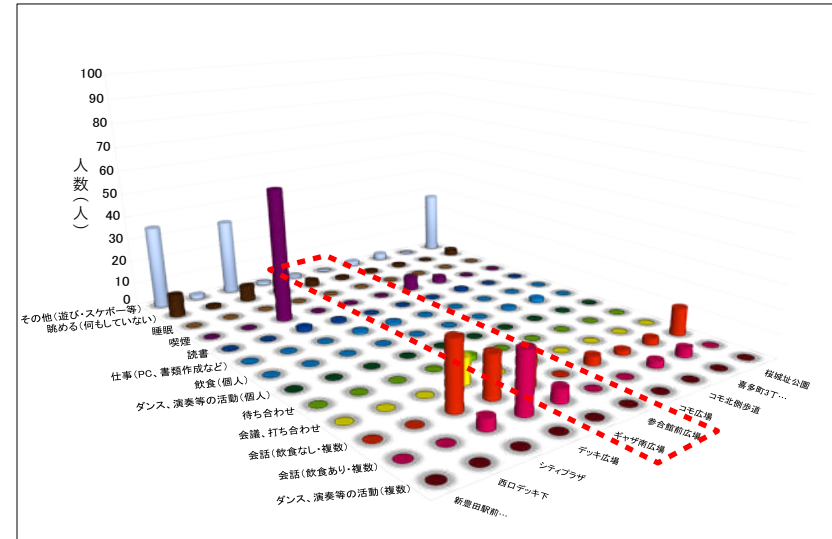


### 3 将来的な整備のイメージ（パース・図面）



### 4 プレイス調査の結果：試行期間中の秋・平日（2016.10.26）

○現状では、広場として整備予定の場所のほとんどがバスやタクシー、自家用車のための交通広場となっているため、日常的な利用は通り抜けるだけであることが多く、今後何らかの滞留の仕掛けが求められています。



### 5 直近3年間のスケジュール

- 2016年度 活用の仕掛けを検討するための試行を実施
- 2017年度 統一窓口による活用 + TCCMによるアトリウム活用
- 2018年度 活用の推進
- 2019年度 活用の推進 + 本整備に向けた詳細検討



## ゾーンD 停車場線

停車場線は、豊田市駅から豊田大橋、豊田スタジアムへと続くメインストリートの軸線をより強調する場所となります。日常的には隣接する複合施設や近隣住民の方の「前庭的空間」として、知り合いと出会うたり気持ちの良いカフェで一服する場、お祭りでは一番の見せ場へ向かう「花道」となる場所です。

### 1 現状及び試行に基づく広場の特徴

○現在は2車線の車道の両脇に歩道があり、それに隣接してコモ・スクエアとKITARAの建物が並ぶ構成となっています。

○歩道は広くベンチもありますが、日陰や眺める対象、そこに行く動機等、整えるべき部分も多くあります。



### 2 活用の方針

○今後実証実験を重ね、地域等のみなさんとの合意形成を図りながら検証をした上で、将来的には歩行者のためのフルモールとしての整備を目指します。

○フルモール化後は訪れた人が快適にまちを歩け、隣接する施設を利用しつつゆったりと過ごせる空間となり、お祭り際には「ハレ」の空間として多くの人が集う場になります。

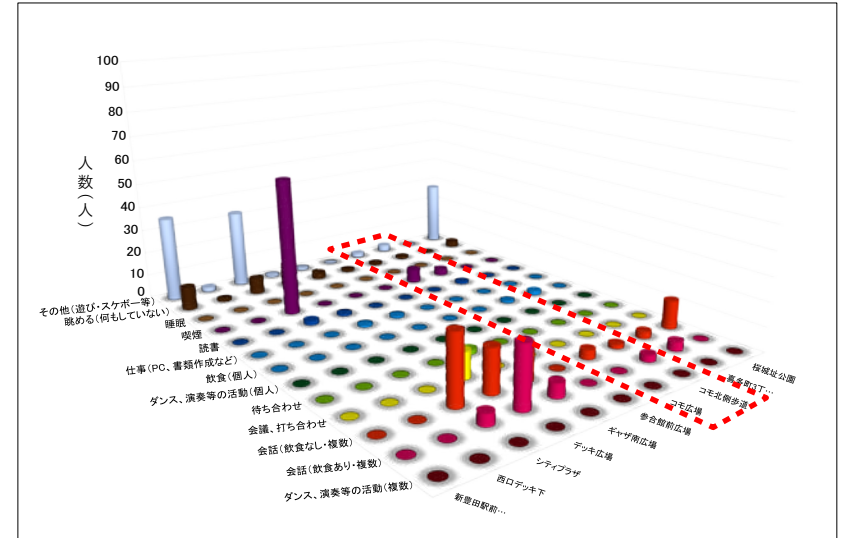


### 3 将来的な整備のイメージ（パース・図面）



### 4 プレイス調査の結果：試行期間中の秋・平日（2016.10.26）

○現状は中央部は車道となっている上、北側は再開発の工事中であるためほとんどの人が通過するだけの空間ですが、沿道施設が道路に開き、地先の活用を図ることで、人々の潜在的な利用のニーズを引き出せる可能性があります。



### 5 直近3年間のスケジュール

- 2016年度 コモ・スクエアの広場を対象に、活用の試行と検証を実施
- 2017年度 フルモール化の実証実験を実施予定(11月 KITARA開業)
- 2018年度 フルモール化の実証実験
- 2019年度 フルモール化の実証実験

※フルモール化は実証実験を重ね、地域等のみなさんと合意形成を図りながら検討し、実現を目指す。



お問い合わせ

豊田市 都市整備部 都市整備課

TEL:0565-34-6622

E-MAIL:[tosiseibi@city.toyota.aichi.jp](mailto:tosiseibi@city.toyota.aichi.jp)



